

研修実施報告書

研修名

基幹型相談支援事業先進地見学研修

法人名

社会福祉法人徳充会

開催年月日

R7.11.5～6

開催場所

愛知県半田市雁宿町1丁目22-1

研修の目的

基幹相談支援センター設置に向けて地域の機運を高める

研修の内容

基幹相談支援センター運営の先進地である愛知県半田市基幹相談支援センターを視察する。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

この地域に基幹相談支援センター設置に向けて、行政・事業所ともに動き出すこと
令和8年度七尾市、令和9年度(予定)中能登町設置に向けて本格的に動き出しました。
七尾市は現在予算要求を議会にあげるところまで進めることが出来ました。

研修の参加者

【全体人数】15人

【当該法人の参加人数】4人

【当該法人以外の参加人数】11人

基幹型相談支援事業先進地見学研修 研修① 講義内容

- ・半田市障がい者相談支援センターの紹介
- ・障がい者の地域生活の現状から体制整備へ
- ・半田市自立支援協議会の現状
- ・相談支援の質の向上と体制整備
- ・質疑応答：詳細は別紙視察報告参照

参加者からの感想

- ・リアルな話を聞くことが出来た。人材育成の体制は、地域の支援者の立場からするととても心強い。同行対応なども自地域でもあってほしい。
- ・自分の地域で話が進んでいることを実感して刺激になった。
- ・講師の話がとても面白かった。こうであったらいいと感じた。
- ・自分自身も人材育成してほしいと感じた。
- ・コーディネートが鍵。そのような人物を確保する。育成することが課題。基幹の役割も何をチョイスするか検討が必要
- ・行政と相談が集まった機会で良かった。官民協働、自法人にも基幹が必要であることを強く伝えていこうと思う。相談支援体制を整えていく。
- ・どうやって整備してきたかを確認できた。(配置や形)行政と一緒に話が出来たことがよかった。今後形にしていかなければならない。
- ・人材育成について刺激を受けた。基幹で預かって、育てて返す方法を聞いて驚いた。自地域では人材や規模など諦めていたこともあったが、どんな体制が良いのか考えていきたい。
- ・自分に何ができるのか？15年後を考えていなかった。不安はある。
- ・いろいろな基幹があることを学べた。行政職員が知識がある。制度を熟知している。
- ・今後基幹に人材を持っていかれた場合、自身の担当ケースがどのようになるのか、自分がどう関わるのか不安に感じることもあった。指導者側になれるように頑張って成長していきたい。行政にも恵まれているので皆で頑張りましょう。
- ・もっと早くに聞ければ、前任者が積み上げてきた協議がぶれるような話もあった。信頼を得ることのできる行政でありたい。今回の研修で後押しをもらった気がする。違った時には方向転換すればいいと考えることが出来た。
- ・母体に力がある。行政との上手い関係性。どう運営していくかを考えていると事が素晴らしい。今後自地域でも考えて進められたら。
- ・「わぁー」って思った。基幹はあると地域の中でいい。みんなでやっっていこうという気になる。基幹が引っ張る形がわかりやすかった。
- ・相談員不足は、自地域でも今後課題となる。事業所任せにするのではなく如何に地域で育成していくか、相談員確保の必要性を伝えていくか刺激になった。

研修②報告会 1回目 20名(行政含む) 2回目 16名(相談支援専門員) ハイブリッドで実施

講義内容：報告資料を使って報告：今回は基幹相談のトップランナーを視察した。同じ形を自地域でできなくても、いいとこどりや自地域に合った形を探しながら、設置に向けて準備していきたい。